

令和4年6月30日 第532号

北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長 髙沢 ゆみか

憧れの「気持ち」と「まなざし」で育ち合う

例年より早く梅雨が明け、連日真夏のような日差しが照りつけています。園ではプール遊びも始まりました。開放感を味わいながら楽しむ子どもたちの、まぶしい笑顔が見られます。このところ新型コロナウイルス感染症がやや落ち着きを見せていたことで、今年度は、思い切りプール遊びを楽しむことができているだけでなく、徐々にいろいろな行事や学年を超えた子どもたちの交流の機会がもてるようになってきています。

先日は、年長さくら組が自分たちで育てたジャガイモを収穫し、クッキングデーでカレーを作って食べました。会食こそできませんでしたが、年少ちゅうりっぷ組の子どもたちも、さくら組が作ってくれたカレーをとてもうれしそうに食べていました。カレーには、さくら組のジャガイモが入っていることも、もちろん知っています。ジャガイモを収穫したときから、ちゅうりっぷ組の子どもたちは、さくら組の様子に興味津々でした。近くにしゃがみこんでじっと見つめ、さくら組が畑から大小様々なジャガイモをゴロゴロと掘り出すたびに歓声を上げたり、気付いたことを担任や近くの友達に話したり…。ちゅうりっぷ組の子どもたちにとって、さくら組は憧れのお兄さん、お姉さんです。一方、さくら組の子どもたちも、学級の友達と一緒にジャガイモの収穫を喜びつつ、ちゅうりっぷ組の憧れの視線が自分たちに注がれていることも意識しており、誇らしい気持ちを感じています。

クッキングデーの日、さくら組で担任がカレーを作って食べた感想を尋ねると、「ちゅうりっぷ組さんに、ありがとうって言ってもらってうれしかった」という声がありました。こういったことの丁寧な積み重ねが、少しずつ年長組を年長組らしくしていくのだと感じます。年長組の姿が憧れや手本となり、「自分もさくら組さんみたいに…」という気持ちが年少組を育てるのと同時に、年少組の憧れのまなざしが年長組の自覚や意欲を育てています。

6月の誕生会では、さくら組が『ミッキーマウスマーチ』の合奏を披露しました。ちゅうりっぷ組は、興味と憧れの思いいっぱいでさくら組の様子を見ており、さくら組は、ちゅうりっぷ組が聞いてくれていることで、俄然やる気が増し、気持ちのそろった素敵な演奏となりました。互いの存在が、互いを育てていることを実感した場面です。あと数週間で夏休みとなりますが、子どもたち同士が育ち合っていく集団生活ならではの場面や機会を日々大切に過ごしていきたいと思います。

今月の指導のねらい

<ちゅうりっぷ組>

- ・ 自分なりの思いやイメージをもち、動きや言葉で表しながら、友達とかかわって遊ぶことを楽 しむ。
- ・ 様々な水遊びを楽しみ、水に親しんだり、開放感を味わったりする。

くさくら組>

- 自分なりに目的をもって遊びに取り組み、考えたり試したり工夫したりする。
- 一緒に遊ぶ友達の思いを受け止めながら、言葉のやり取りや思いの伝え合いをする。